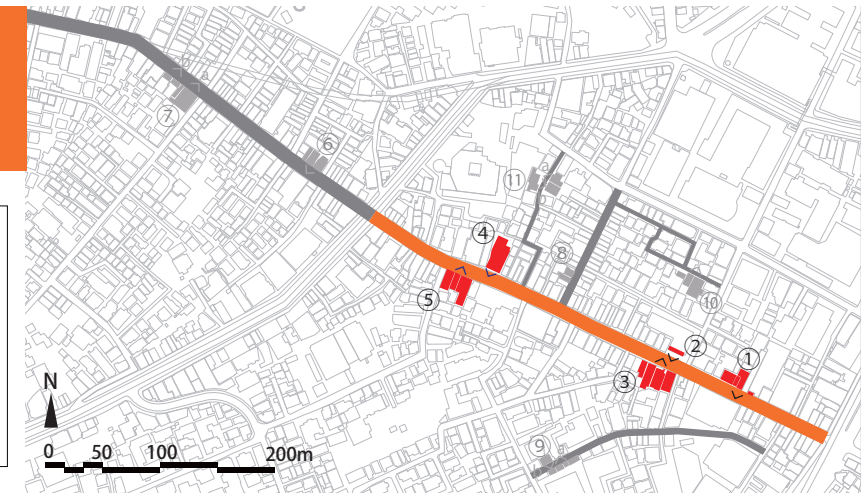


神楽坂地区 建築ファサード低層部景観分析 (神楽坂通り 1~5丁目)

2020年3月

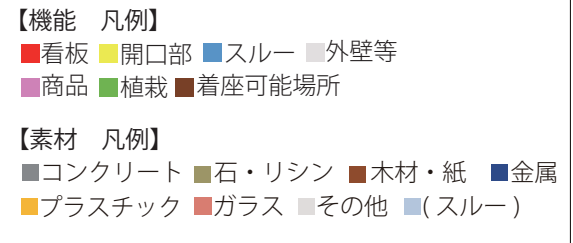
調査・制作：芝浦工業大学環境設計研究室
協力：NPO法人粋なまちづくり倶楽部



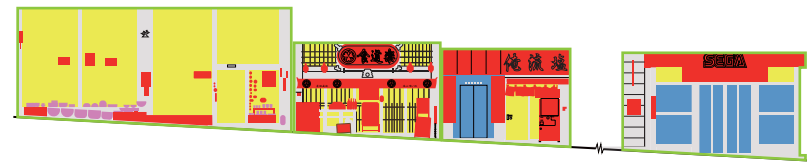
■神楽坂通り1~5丁目 神楽坂通り商店会 調査地点の平均

【機能】「外壁等(45%)」「開口部(28%)」「看板(20%)」の順に多く3種類の合計は90%以上となった。全体として「植栽」「着座可能場所」は少なく、アイレベルにおいて景観に潤いを与える要素や休憩できるところが少ない。

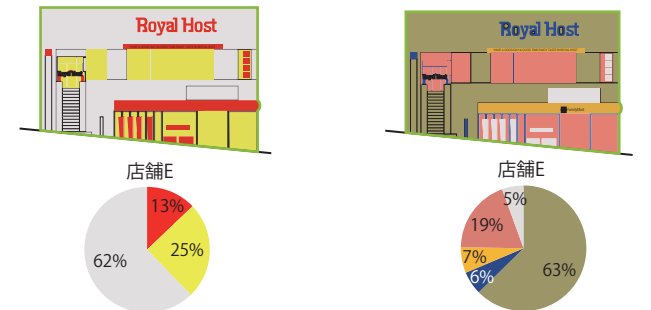
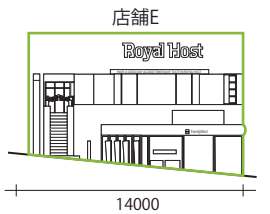
【素材】外壁は「石・リシン(33%)」「ガラス(27%)」の2種で60%を占めた。「石・リシン」は外装用石材、タイルが大半で、色彩は黒、灰色等の落ち着いたものが多い。



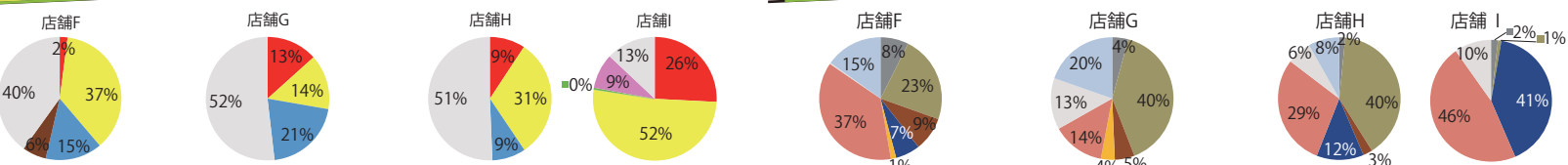
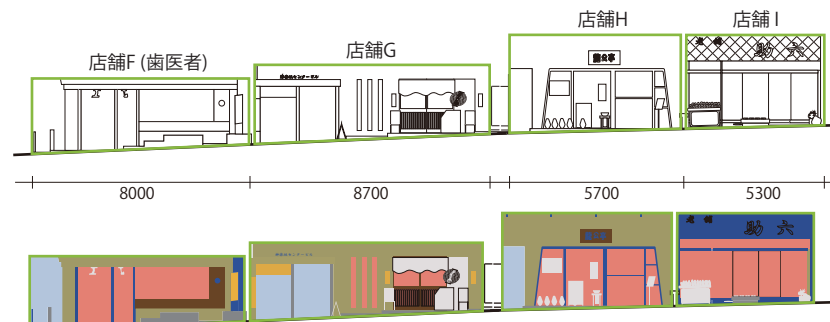
① 神楽坂2丁目



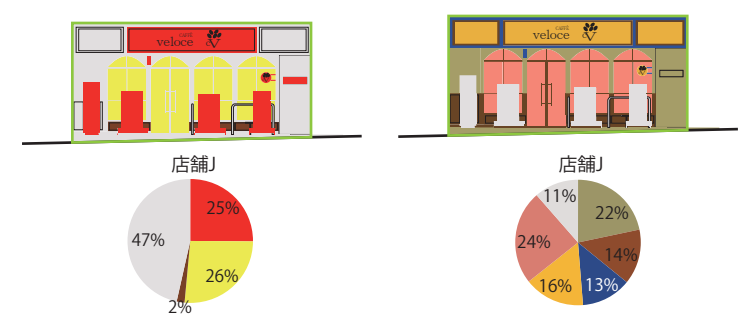
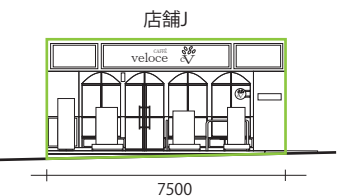
② 神楽坂3丁目



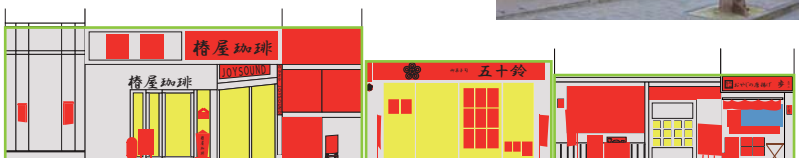
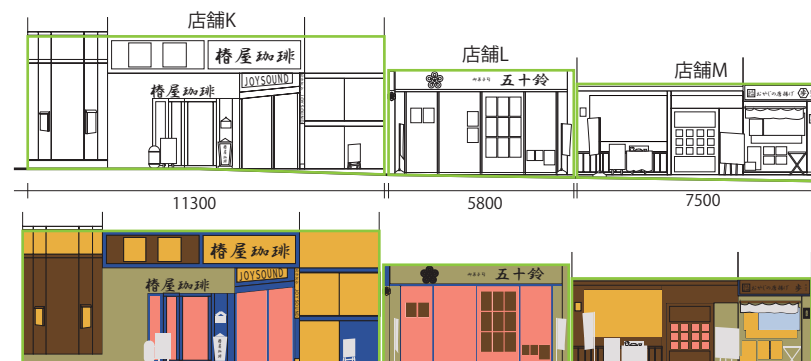
③ 神楽坂3丁目



④ 神楽坂4丁目



⑤ 神楽坂5丁目



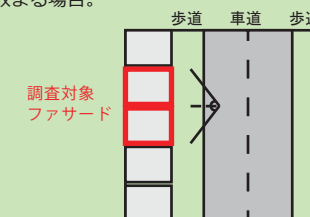
【低層部ファサードの立面図作成及び写真撮影方法】

- ・対象の建築ファサードの1F軒高以下に対して正面から撮影。
- ・大人の平均身長を考慮し、地上1.5mの高さで撮影。

※二次景観（特定の対象物を注視する際の景観）において、特定物を見る方向としては斜め方向もあるが、歩行による接近、回頭動作等によりファサード面にほぼ正対した景観を認識するため、正面から撮影した写真を用いることとした

〈撮影例①〉

調査対象となるファサード面が一枚の写真に収まる場合。



〈撮影例②〉

調査対象となるファサード一枚の写真に収まらない場合は、撮影者が歩行者目線で横に平行移動をしながら複数回に分けて撮影し、合成。

